

スイートコーン『ミエルコーンE』の抑制栽培について

雪印種苗(株)
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム
広瀬 慶多



1. はじめに

北海道産のスイートコーンが市場から姿を消す10月以降の出荷をねらって、関東や西日本では晩夏に播種をおこなう抑制栽培に注目が高まっています。ただし抑制栽培は台風や霜害などのリスクが多いほか、圃場準備や病虫害防除など管理に手間がかかることから取り組みは容易ではありません。今回は抑制栽培に最適な弊社黄色品種「ミエルコーンE」を利用したスイートコーン露地抑制栽培について紹介いたします。以下の栽培のポイントを押さえた上でお試しください。

◎抑制栽培を成功させるための3つのポイント

- ① 抑制栽培に適した品種の選定
- ② 適切な播種期の設定と圃場準備
- ③ 生育初期からの定期的な薬剤防除による害虫対策

2. 品種の選定

抑制栽培では生育初期が高温で経過するため、早生品種では十分な枚数の葉が展開する前に出穂を迎え、穂の肥大が不足すると思われてきました。そこで草勢の強い中生種が用いられることが多いようでしたが実際は初期に草丈が伸び過ぎ(徒長し)たり、雌穂の生育に包皮の生育が追いつかないため穂先が露出してしまったりしました。また、生育後半は一転して気温が下降する作型のため熟期が遅い品種では収穫に至らない可能性もありました。

弊社の黄色種「ミエルコーンE」は早生種ですが抑制栽培でも肥大が良好であることが確認されています。また包皮の

かぶりが非常に良好なため安定した収穫が期待できる品種としておすすめいたします。

《ミエルコーンEの品種特性》

- 通常露地栽培では関東標準で82～83日で収穫できる早生種
- 草丈は短桿で太い、耐倒伏性が強い、葉は幅広く大きい
- 包皮のかぶりが非常に良く、包皮色がやや濃い、旗葉も長く外観に見映えがする
- 穂長はやや短めだが、穂径が太い、穂重は400g以上で比較的大型となる
- 甘味が強く、食味は良好

3. ミエルコーンE抑制栽培のポイント

1) 適作型

春播きでは「ミエルコーンE」は積算気温ではおよそ1700℃で収穫を迎える品



▲播種後39日目(2012年8月7日播種、弊社千葉研究農場)

種です。積算気温の一定性は抑制栽培でも概ね当てはまるのでアメダスデータの日平均気温を利用すると播種日からおよその収穫期が算出されます。ただし10℃を下回るような低温では生育が著しく停滞し、穂の肥大が期待できませんので極端な遅まきは避けてください。

例) 千葉県千葉市 (7月15日～8月15日)
7月15日播種→9月20日収穫 (67日)
8月1日播種→10月10日収穫 (70日)
8月15日播種→10月31日収穫 (77日)

抑制栽培では生育後半に低温を迎えるため、絹糸抽出期～収穫期では一般的な露地栽培と比較して日数を要し、播種期によっては絹糸抽出から30日以上かかることもあります。

『ミエルコーンE』の作型表(露地抑制栽培)

地域	作型/月	7月	8月	9月	10月	11月
一般地	露地抑制		●	●	■	■
暖地						

●:播種期 ■:収穫期

2) 圃場準備と播種

生育中期が台風シーズンにあたるため、それを考慮した圃場の確保が重要です(防風林がある、排水性が良いなど)。防風ネットの設置やソルゴーなどガード作物を圃場周囲に栽培するなどの対策も有効です。

○肥培管理

生育初期～中期は地温が高く肥料効率が良いため、草勢は旺盛になりやすい条件になります。「ミエルコーンE」は徒長しにくい特性があるため元肥は春播き露地栽培並として初期生育を旺盛にすると穂の肥大が期待できます。草勢を見ながら追肥も春播きと同程度の対応とします。

『ミエルコーンE』の施肥例(kg/10a)

作 型	元 肥			追 肥
	窒素	リン酸	カリ	NK化成(ロングで対応可)
露地抑制	12	24	12	窒素、カリ 8

○マルチ被覆と播種

生育初期での生育差が収穫期までそのままの生育差となりやすいため発芽ムラが無いように播種条件には春播き栽培以上に注意を払う必要があります。高温による発芽障害や徒長を防ぐため、地温抑制効果のある白黒ダブルマルチ(または銀黒、シルバー)の使用が有効です。圃場乾燥時にはマルチ被覆前に灌水をおこなって土壌水分の確保をしてください。密植すると徒長しやすいので株間は30～35cm程度、栽植密度は3,500～3,800本/10a程度とします。



▲白黒ダブルマルチで初期の徒長を抑制

播種後の鎮圧や灌水をおこなうと発芽が安定します。また初期生育の安定には弊社「ネぢからアップ」の処理も効果的です。生育初期に細根を増やすことによって干ばつ条件でも揃いの良い生育が期待できます。

3) 生育期間中の管理

○追肥

大型穂の確保、先端不稔防止のためにも追肥は必ずおこなってください。追肥は2回に分けて施用するのが有効で、1回目は本葉5枚期頃(幼穂形成期始め)、2回目は雄穂抽出期としてNK化成肥料でおこないます。通路に葉が茂り雄穂抽出期での追肥が困難な場合(葉を痛める危険がある場合)は、薬剤防除に合わせて液肥の葉面散布で対応します。(雄穂抽出期および開花終了後の2回)。

○病害虫防除

主にアワノメイガ、ヨトウムシ、オオタバコガに注意して生育期間を通して定期的な薬剤防除をおこないます。春播きよりも早期に被害が多く見られるため、生育初期からの定期的な薬剤防除が必要です。フィプロニル水和剤、クロラントラニプロール水和剤などの薬剤で効果が期待できます。特に雄穂抽出始めの防除が重要で、1株ずつ雄穂に流し込むような薬剤散布をおこなってください。カルタップ粒剤やNAC粒剤散布も有効です。



▲抑制栽培でも生育揃いが良好な「ミエルコーンE」

生育後半の秋雨の時期(低温多湿条件、肥料切れで助長)にすす紋病が発生することがあります。生育途中に台風などで倒伏したり、葉が傷められたりした場合は特に発生しやすくなりますので、弊社「SS-374」などアミノ酸液肥で草勢の回復をはかるほか、病害発生前にトリフルミゾール水和剤の散布をおこないます。

上記薬剤については地域によっては使用ができない場合がありますので、事前にお近くの農協や普及所などに確認してください。

4) 収穫

収穫の目安は絹糸抽出後25～30日程度と通常の露地栽培と比較して日数を要します。成熟は積算気温で決まるため絹糸抽出期以降の外気温によって前後します。収穫期が近づいてきたら従来どおりに先端粒の張り具合の確認および食味による適期判定をおこなってください。

4. むすび

「ミエルコーンE」は春播きではトンネル促成栽培から露地栽培まで広い適応性が確認されています。これまでに抑制栽培適性も確認されており、すでに実規模での栽培もされています。春播きも抑制もこなせるオールラウンダー「ミエルコーンE」を是非一度お試しください。